

## 答辞

春の暖かな日差しが体全体に感じられ、校庭の木々の芽も膨らむ今日この良き日、私達184名は扶桑中学校を卒業します。

ご来賓の皆様、諸先生方、後輩のみなさん、本日は私達のためにこのような素晴らしい卒業式を催して頂きありがとうございます。

3年前、私達は真新しい制服を着て、この体育館で出会いました。憧れていた中学生になったのだという期待と、まだ見ぬ中学校生活への不安を抱えながらのスタートでした。

初めての中学校生活に戸惑いながら、ただただ先輩の姿を習い、一所懸命駆け抜けた1年生。

後輩ができ、先輩と呼ばれるようになって、自分たちの未熟さと先輩方の偉大さを学んだ2年生。

そして最高学年となった3年生。修学旅行では、ここにいる仲間たちと経験したからこそ、深く心に刻まれる思い出となりました。

体育大会では、自分が出場する競技以上に仲間たちを応援するみんなの姿が誇らしかったです。合唱コンクールでは、うまくいかない時もあり、先生方に心配されながらも、一致団結してクラスの絆を深めました。

たくさんの思い出の中でも、私は部活動での日々が大きく心に残っています。同じ目標をもった仲間と、技術面はもちろん、精神面も鍛えていった毎日は、何にも代えがたい経験でした。仲間と汗を流し、厳しい練習を乗り越え、時にはぶつかり、試合に勝てたときは仲間と心の底から喜びました。引退が近づいたある日、こうして仲間とグラウンドで過ごす何気ない日常が、自分にとってはかけがえのないものだと気づきました。

私は、部活動を通して時間の大切さ、諦めない心、礼儀や仲間への信頼など数多くのことを学びました。この経験を将来に生かしたいと思います。慕ってくれた後輩のみなさん。

この学校には親身になって相談に乗って下さる先生方がたくさんいます。正面から向き合い受け止めてくれます。困難にぶつかった時、ぜひ相談してみてください。必ず力を貸して下さい。そしてどうか皆さんの力を合わせて今よりもっと素敵な扶桑中学校にしていって下さい。

いつも熱心に指導して下さいました先生方。時には厳しく、時には優しく、たくさんの言葉を私達に注いでくれました。夢中になり、全力で取り組んだ部活動の最後の試合と3年間の練習の日々が終わった日の先生の涙はとてもきれいでした。一つのことをやり切ったという自信をもたせてくれました。これからの人生を歩む上での大きな糧になったと思います。本当にありがとうございました。

お父さん、お母さん。たくさん迷惑や心配をかけました。どんな時も誰よりも近くで見守ってくれました。どうしようもない苛立ちにそっと手を添えてくれました。

大切な命を授けてくれた「父や母のような親になりたい」と今、心の底から思います。大切に育ててくれてありがとうございました。

3年生のみんな。出会ってから3年、側にいることが当たり前だと思っていたみんな。今

日という日まで毎日笑顔で過ごすことができました。みんなの一生懸命な姿が大好きです。本当はまだ一緒にいたい。笑っていたい。けれど今日を境に別々の道を歩き出します。でも、今日という日は別れの日ではなく、夢への出発の日です。みんなに出会えてよかった。本当にありがとう。

最後に…

私には夢があります。信頼できる友達がいると堂々と言える大人になることです。

私には夢があります。この扶桑町で生まれ育ったことを誇りに思える大人になることです。

私には夢があります。将来、『自分の歩んできた道は、間違っていなかった』と胸を張って言える大人になることです。

明日から私達は夢と希望を胸に自分の足で自分の道を探し、一步一步歩いていかなければなりません。私はこの夢を掴み取るため、毎日を大切に生きていきたいと思います。

卒業生を代表して、私たちを支えてくださったすべての方に心から感謝の気持ちを申し上げて、答辞といたします。

令和2年3月3日 卒業生総代 小村 香心